

○議長（中村 昭人議員） 日程第1「一般質問」を行います。

議長の手元まで質問通告書が提出されておりますので、順次発言を許します。

念のため申し上げます。質問の順序は、通告書の提出順とします。

まず、蓑原敏朗議員に発言を許します。

○議員（蓑原 敏朗議員） おはようございます。初めてトップバッターで質問させていただきます。少し緊張感を味わっております。

それでは、さきに通告いたしました質問通告要旨に基づき質問させていただきます。

まず最初に、農業振興対策について質問いたします。

町長就任以来、1年半以上が経過され、様々な課題に取り組んでこられたことと思います。私もその間、一般質問の機会等を通じて町長の御見解や取組についてお尋ねをしてきました。私の議員活動の目的・目標は、持続可能なまちづくりです。ただ、地図上に名前が残るだけのまちづくりということではなく、町民がより豊かに暮らせて、川南に生まれて住んでよかったと思えるような町にできたらという思いであります。そのための課題として、多くの自治体が進みながらも、なかなか明るい兆しが見えない、じり貧状況の人口減少問題解決が横たわっています。いつも申しますが、地域や町の健全な維持には一定の人口が必要と考えています。町長も私の過去の質問の中では、本町では1万2,000はどうしても必要だと言われたことがあります。町長、その人口も目前で危機感さえ覚えます。私は、人口減少を止め、また維持するには、そこで暮らす人々の生活ができる仕事が必要だと訴えています。人々の生活可能な収入を得る手段はいろいろあるのですが、本町の歴史やポテンシャルを考えれば、それは農業あるいは漁業振興といった1次産業の振興ではないでしょうか。

以前、基幹産業に関わる私の問いに町長は、本町では農業という認識をされたことがあるかと思えます。農業振興が商業等の他産業にも後押しになる好循環を創出する旨も申されました。今回の衆議院選挙でも、食料安保の観点からでしょうか、食料自給率向上の必要性を言われる候補者も多数おられましたが、このままではどうなるのかと甚だ心配です。

翻って、本町の現在の農業状況はどうなのでしょう。町長は、本町農業の現状と課題はどのように御認識されているのでしょうか。就任時から現在との間に何か変わったこと、お気づきではないかと思えます。まず、そのことをお尋ねいたします。あとの質問は質問席でさせていただきます。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の御質問にお答えします。

結論から申し上げます。総体的には極めて厳しい状況であると認識しております。一方で、全体的には厳しい現状ながらも、しっかりと好業績を残しておられる経営体も数多く存在するとの認識もございます。よって、このような様々な現状等を総合的に勘案し、新年度予算案を提案させていただいたところであります。

なお、農業の現状と課題についての詳細は産業推進課長に答弁させます。よろしくお願いいたします。

○産業推進課長（河野 英樹君） 菘原議員の御質問に補足で説明させていただきます。

まず、農業の現状につきまして申し上げます。農林業センサスの確定値で申し上げますので、令和2年の数値になります。川南町の農業経営体数は682経営体です。これは平成27年の771経営体と比較して、5年間で11.5%の減少となっています。令和2年、約5年前におきましても、既に川南町の基幹的農業従事者、主に農業に従事している方のうち、65歳以上が多数を占めております。この傾向は今後も続く見込みです。

次に、異常気象や気温変化が作物の生産に影響を与えています。実際に栽培管理において、時期を変更する必要があるなどの影響が見られます。加えて、日本の農業は、肥料、資材、燃料、人件費等の価格の高騰によりコストが上昇しています。一方で、農産物価格は上昇している面もありますが、それ以上に生産コストが上昇しており、農業者の所得が圧迫されていると認識しております。

続きまして、農業の課題ですが、後継者不足に加え、高齢化が進む中で、家族に経営が引き継がれないケースが増加しております。よって、多様な担い手を確保する取組をはじめ、需要の変化に対応した作物の導入や、耕種版インテグレーションと近年呼ばれております契約に基づく栽培管理の一部を担う分業体制などの取組についての検討を要すると考えております。この課題につきましては、今後の農地利用の在り方にも大きく関係する項目であると考えております。

次に、気候の変化の対応策の一つとして農業技術の高度化が挙げられますが、導入にはコストや知識の壁が存在するため、導入補助や情報共有などの支援が求められると考えております。

最後に、高騰するコストへの財政的支援のほか、構造的な問題を解決するための生産性向上や価格転嫁への支援が求められると考えております。

以上です。

○議員（菘原 敏朗議員） 申し上げますがそれぞれ正しいんだろうと思います。ただ、ちょっと気になったのは、一つ、今後も農業者数の減少というのは続くだろうと思いますとおっしゃいました。確かにそうなのでしょう。でも、それでいいんでしょうかね。それで、川南町は農業者減少を前提に今後の農業政策を進められるんでしょうかね。その辺はちょっと気になったところです。

それと、令和8年度の予算説明の冒頭でも、EBPM—Evidence—Based Policy Makingということなのでしょう、確かにそのとおりだと思うんですね。現状を正しく認識して課題を見つけないと、解決策は当然見つからないと思うんですね。だから、将来も農業が減っていくのではないのでしょうか、現状はそ

の傾向なんでしょうけど、それをどうにかして止めるという方策を考えなくちゃいけないんじゃないですか。おっしゃったように、一つ一つの例えばインテグレート政策とか、価格上昇への対策とかですね、気候変動はなかなか難しいことなんでしょうけど、その辺の課題に対する対策というのはどのようなお考えなんでしょう。

○産業推進課長（河野 英樹君） 蓑原議員の御質問にお答えします。

担い手農業者の数が今後も続く見込み、これは客観的にそう分析をしています。それがいいかどうかと言われると、それをあらがうためにも長期的なビジョンが必要だと思いますし、その対策を講じていくつもりでございます。その大枠として長期総合計画、令和8年度からは5年間の後期計画がございますが、その中の基本施策におきまして担い手の確保というところで親元就農への支援とか、いろんな、第三者への経営承継なんかの対策を取りながら、その減少する数を少なくとも著しく下がることのないように、生産基盤を整えることをできるような体制づくりに取り組んでいく予定でございます。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 長期的に考えていくということなんですけど、それは必要でしょうけど、何でもでしょうけど、物事を進めるには、すぐやらなくちゃいけないこと、中間的なこと、長期的なこと、その辺をちゃんと分けて考えていかないと、あっ、手遅れとかということにもなるかと思しますので、その辺も留意していただきたいと思します。

時間の都合で次に進みますけど、12月だったですかね——すみません、まだその前です、町長に、川南町も同様ですけど、農業者離れが進んでいるということで、県の農業者団体等が県知事に申入れをしたということを説明、質問いたしたことがあります。そのとき町長は農家離れの大きな要因は収入が少ないということ、全くそのとおりでと思います。農業者、うまくいっている、農業者間に差異があると、技術的なこと、いろんなこと、差があると。それをデータ化して本町農業に、いい事例の農家のということなんでしょうけど、をデータ化して、それを進めることをやりたいとおっしゃったんですけど、その成果、その進捗状況はどうなっているんでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の御質問にお答えします。

農業に限らず、現在の社会においては、データは収益向上のために不可欠な経営資源となっています。特に農業分野では、長年の経験と勘に頼ってきた領域をデータ化し活用することによる生産性の向上が期待されますので、収益向上策のデータ化は最も重要な部分であるとの位置づけであります。

次に、町独自のデータ化の有無であります、町に帰属するデータは現時点におきましては不存在であります。それには理由があります。御承知のとおり、スマート農業等の実践において、農業者が利用するデータは農業者自らが取得し、データをそれぞれの農業者が保有することが基本となりますが、宮崎県がデータ駆動型農業の推進として、

独自のアプリケーション等の開発による施設園芸のデジタル化を進め、A Iの活用や、利用者がデータを共有できる仕組みを進めています。この仕組みを把握し、それを活用することが効果的であると判断したため、町としてのデータ化事業は実施しておりません。

加えて、データ解析やA I活用においては膨大なデータの量が必要不可欠ですので、本町においては、宮崎県が進めるデータ駆動型農業の利用推進や、必要となる環境モニタリング機械等のスマート農業技術の導入支援を行っていきたいと考えております。

○議員（蓑原 敏朗議員） 具体的なデータ化は本町は進んでいないということなんですけど、断っておきますけど、私がデータ化しなさいと言ったんじゃないくて、町長がデータ化したいとおっしゃったから、どうなってるんでしょうかということをお聞きしたんです。

ただ、言葉尻つかまえるようなんですけど、データ化ということじゃなくて、もうちょっと柔らかくノウハウという意味で言えば、それぞれの農家、いい農家さんは持っていらっしゃると思うんですね。それをうまくいってない農家さんに伝える、川南町にもいろんな部会がありますけど、そういうことは可能じゃないかと思うんですね。

例えば今年イチゴがあまり成績がよくなかったというふうに聞いていました。ある、三、四日前ですかね、イチゴの農家さんが私のところにイチゴを持ってきてくれまして頂きましたけど、「今年は悪かったそうですね」と言ったら、「うんにゃどう」と、「何軒かは物すごい良かったどう」と、金額もおっしゃいましたけど、相当もうかられたそうです。今までのいろんな経験等を蓄積されて、やられた農家もあるんだそうです。その辺のノウハウをもうちょっと広げるような御努力を、町としても、農協等と、関係農業団体と一体になって進める必要があるんじゃないんでしょうかね。

長野県が今ではもう確固たる高冷地野菜の産地として、白菜とか、レタスとか、日本では有名になってますけど、そういった始まりは行政と農協が進めたんだよというふうに聞いております。その辺のノウハウを広く伝達するような手段、もうちょっと進められるお考えはないんでしょうか。今で十分なんでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えいたします。

先ほどイチゴを具体的な例としておっしゃいました。昨日、イチゴ部会から、町内各保育所・幼稚園等にイチゴを届けていただきました。その中でお聞きしたのはですね、やはり夏場の苗のコクソ病等の病気で非常に厳しいと、反面、しっかりと対策をして苗を育てる、そして出荷高がちょうどピーク時にはちょっと遅れましたけど、今現在しっかりと収益を確保しているというお話もありました。

J Aみやざき尾鈴地区本部長、網代本部長から、イチゴの苗、無菌化のイチゴの苗の導入ということも考えられないかという御相談も一時期いただきました。イチゴ農家の方にお伺いすると、今の状況で何とか苗は確保できていると、ただ多様な品種が今現在

出てきていると。イチゴは県内で出荷高が2番目の尾鈴地区本部です。それだけ優秀な方々もいらっしゃるんですが、やはり病気、温暖化の影響でダウンしているというところもございます。イチゴ部会またJAみやぎ尾鈴地区本部等がしっかりとそういった対策について意見を交え合わせながら、また町としてできることも含めて、今後検討してまいりたいと思います。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） テレビで「ポツンと一軒家」という番組が時々あって、私、偶然ですけど見ることはあるんですけど、趣味とか、あんなのでもいいんでしょうけど、一つの農家だけでこうやったって、やっぱり産地間競争というのもありますから、やっぱり産地づくりは大切だと思うんです。そういう意味で、町長、あんまり触れられなかったですけど、部会への指導というんですか、助成なんかをもうちょっと積極的にやられるべき、もしできる余地が、僕はあんまり詳しくないので、そういう余地があるならですよ、もうちょっとこう、活発にやられている部会ももちろんあるんでしょう、そうでないものについては、そういった指導ももうちょっと手助けするべきじゃないんでしょうかね。

それと、イチゴのウイルスフリーについては既にやられているんじゃないかと思ってるんですけど。

○産業推進課長（河野 英樹君） 蓑原議員の御質問にお答えいたします。

まさに蓑原議員がおっしゃられたとおり、産地化の確保、維持をするために、産地、部会が存在しているものと思っております。また、このJAの部会におきましても、独自で研修会を常にやられておられます。加えて、蓑原議員も御承知のとおり、農技連がまだ存在しております。まだ存在しておるといいう言い方が適切かどうか分かりませんが、JAの部会、県の普及センター、そういう技術を持った方々に行政も加わって、産地化の保全、維持のために、そういう研修をやっておりますので、優秀なとか、優れた技術の伝承等はこういった機関を通じて伝えていきたいというふうに今後も思います。

最後に、町長がもしかしたら病名を間違えたかもしれません。イチゴ炭疽病が今年多く出たというところがございます。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 時間の都合で次に移りますが、やっぱり産地づくりというのは大変でしょうから、行政も関わって、ぜひ部会活動、より一層活発になるようにお願いしておきます。

次に、国の指針もありまして農地課を中心に地域計画というのを地域に出向かれてつくられたようです。それぞれできているようですが、今後の本町農業にどのように生かされるおつもりなんでしょうか。

○農地課長（今井 孝洋君） 菘原議員の御質問にお答えします。

本町の地域計画は44地区に分かれており、令和6年度、町内全地区におきまして地元協議を実施し、全ての計画を策定しました。地域計画は策定して終わりではなく、継続的に見直ししながら10年後に目指すべき農地利用の在り方を目指していきます。

地域計画を農業にどう生かすかということですが、現在の計画の目標地図は耕作がまばらで、農地が集約されている状態ではありません。計画を見直しながら農地の集積・集約を進め、農地を面的にまとめることを目指していきます。その具体的な施策として、令和3年度から大規模生産法人への農地シャッフル会議を実施し、2.8ヘクタールの交換につなげました。今後は大規模生産法人だけでなく、大規模に経営されている個人を対象を広げて農地の交換を促し、目標に向けて取り組んでまいります。

○議員（菘原 敏朗議員） これ農水省のパンフレットですけど、農地計画に関わるですね、農地計画は、つくるとはスタート地点ですよと書いてある。全くそのとおりだと思うんですね。農地計画をつくって終わりじゃつまらないというんですか、何にもならないわけで、ぜひ活用して、今、課長がおっしゃいましたように、農地集積、最適化ということもあるようです。

先日、農業委員会と議会は話合いの場を持ちました。その中で、農業委員さんは非常に頑張っているという印象を私は受けました。その中で、悩みというんですか、集積なりいろんなことをしようとすると、いろんな課題があるようです。例えば、この農地がちょっと付近にいろんな迷惑をかけてるから、ちょっとお願いしたいことがある、竹やぶ化して覆いかぶさってるから、その方に何とかしてもらおうと思って、農地であれば農業委員会で分かるんだんですけど、分からなくて税務課に行くと、所有者は教えてくれるけど、住所とかいろんなことは教えてもらえないとか、いろんな壁というんですか、ハードルがあるということでした。

どんな課でも、事業でも言えることでしょうけど、例えば農地問題は農業委員会だけ——農地課だけということじゃなくて、可能な限りほかの課等も協力できる、町全体で取り組むことが必要ではないかな。さらには、町が主体的に、さっき言った竹やぶがかかっていることはですよ、町の問題として所有者等に町から柔らかく連絡するようなこと等はできないものなんでしょうか。

○農地課長（今井 孝洋君） 菘原議員の質問にお答えします。

農業委員会では、遊休農地が隣接する農地に被害を与えている場合や、当該農地を利用したいと申出がある場合などは、所有者への意向調査を兼ねて適正管理を促しておりますが、今後もできる範囲での対応策を検討し、遊休農地の発生防止に努めてまいります。

○議員（菘原 敏朗議員） 遊休農地のことはまた後でお尋ねいたしますけど、遊休農地以外のことで、さっき言った竹やぶとかですね、縦割りでいけば、それは竹やぶは

農業委員会の仕事じゃないのかもしれませんが、町の仕事として捉えてですよ、町から所有者の方に、町外の方もいらっしゃるでしょうけど、そんな方に文書を出していただけたらいいですね。特に、農業委員さん、町外の、農地も含めてですけど、所有者の方もだんだん出てきているようです。町外の方にはなかなかコンタクトも大変なようです。

そして、何事でもですけど、これは多分そういった意識はないんでしょうけど、個人情報保護ということで何でもかんでも、それは教えられませんとか、それはできませんとかいうこともないようではないような気がするんですよ、農業委員さんのお話を聞いてみるとですね。その辺、確かに伝えたり開示してはいけない個人情報もそれはあるでしょう。でも、町が独自に動くというような形で、その辺はうまく農業委員さんと協力しないと、この集積とか適正化というものは、私、話を聞いてて難しいんじゃないかなという、農業委員さんの話を聞いてて感じたもんですから、いかがでしょうか。

○農地課長（今井 孝洋君） 菘原議員の御質問にお答えします。

先ほども答弁しましたとおり、できる範囲内で農業委員さん、住民とのコミュニケーションを当然しっかり取りまして、庁舎内でも、役所内でもそういった関係各所としっかりと連携を取りながら、問題の改善に努めていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議員（菘原 敏朗議員） もちろん、どこかに見えない壁というのはあるんでしょうけど、その「できる範囲内で」ということのできる範囲を少しずつでも広げていって、言葉は変かもしれませんが、町主導でもできることはぜひ、せつかく地域計画をつくったんですから、やっていただけたらと思います。

次に、先ほど課長おっしゃいました遊休農地のことについてお尋ねいたします。

先日、勉強会に課長来ていただいて、農業委員会や農地についてレクチャーしていただきました。その中で、えっと思ったんですけど、再生可能農地が9.8万ヘクタール、困難農地が15.9万ヘクタール存在するということでしたが、今さら私が申すまでもないことですけど、遊休農地、荒れた農地がありますと、まともな農地にも悪い影響が出かねませんよね。病虫害の温床になったり、熊はいないでしょうけど、有害鳥獣のねぐらにもなったりします。

町長、先ほど申しましたが、この遊休農地対策についても、本町農業振興のためには必ずしもいいことじゃないと思うんですよ、何とか策を弄すべきじゃないんでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 菘原議員の質問にお答えします。

農業委員会では、利用状況調査、農地パトロール、利用意向調査等、農地利用の最適化活動を実施し、遊休農地の発生防止、解消に努めております。これまでも補助事業等を活用しながら、荒れた農地を元に戻すなどの取組を行ってきましたが、問題の解決に

は至っておりません。

今後の取組については、担当課長が説明いたします。

○農地課長（今井 孝洋君） 蓑原議員の御質問にお答えします。

遊休農地になる農地にはそれぞれ原因があることについては、先日の農業委員との意見交換会で意見が出たとおりであります。このような原因を取り除かなければ、農地の有効利用は難しいと考えます。国の新年度概算予算説明でも、生産性向上に向けた取組の講ずべき施策として、地域計画と連携した農地の大区画化を推進するとあります。

これを受けて本町では、地域計画の目標地図を活用した農地の集積、担い手に農地を集めること、農地の集約、担い手に集められた点在している農地をそれぞれ集めること、基盤整備の推進、集約された農地を基盤整備することに取り組んでまいりたいと思えます。そのことにより条件が改善し、農地の利用が促進され、遊休農地の解消につながるというふうに考えております。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 農地課長がおっしゃったように、農業委員さんのお話でも、ここを誰か使ってくれませんかと言ったら、隅の三角地で条件が悪くて、俺でも使わんわというようなところだったり、ちっちゃな、迫田というんですか、ちっちゃいところで、かなり条件が悪いと。で、農業委員さんもおっしゃいました。土地改良等がそんなところはもう入ってないところがほとんどだと、小規模な土地改良とか、そういったことをやっぱり模索する必要があるんじゃないでしょうかねということでした。

ぜひその辺、課長、区画整理事業とか、そういうこともやる必要があるということですから、ぜひいろんな、何というんですか、土地改良事業等、必ずしも大規模でなくてもいいのもあると思うんですよね、時と場合によっては。川南町は農村総合整備モデル事業という大きな事業を二度組みまして、農道を含め、いろんな基盤整備が大分進んだんですけど、まだ取り残されたところは相当ありますよね、一番御存じでしょうけど。ぜひそんなことを県なり国なり、ぜひ声を届けて小規模なものでも進めてください。

以前、宮崎県の副知事されてた方が本所にいられたことがあります。僕、偶然お会いして話したら、「いや、それは絶対駄目ということじゃなくて、小規模なものでも検討する余地はあるから、ぜひ声を上げてください」っておっしゃいました。もうその方はいらっしゃらないでしょうから名前言いますけど、郡司さんっていう方でした。もう多分退官されてるんじゃないかと思えますけど。そんなふうで、駄目元ぐらいで、ぜひ小規模なものについても声を出していただけないか。いかがでしょうか。

○農地課長（今井 孝洋君） 蓑原議員の御質問にお答えします。

つい先日、農地シャッフル会議を実施しております。その農地シャッフル会議の中でも、県からも令和8年度の予算の説明ということで、農地の畦畔を除去するような補助事業等の説明がありました。そういった県の事業、国の事業等も活用しながら、そうい

った条件に合わない小規模なところも考えながら、町としても大区画化の推進に努めてまいりたいと考えております。

○議員（蓑原 敏朗議員） 課長、ぜひ駄目元というんですか、もう駄目、最初から諦めながらじゃなくて、ぜひその辺、努力していただきたいと思います。それと、川南町の遊休農地対策は、今から生まれる遊休農地と既にある遊休農地の解消も同時にまた図らないといけないと思うんですね。その二本立てで進めてください。

時間の都合で次に行きます。広報・広聴活動についてお尋ねします。

町長は先日、タウンミーティングを開催されました。大変寒い日でしたけど、多くの方がお見えになっていました。町長、初めてのタウンミーティングだったのではないかと思いますけど、どのような御感想だったのでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えいたします。

先日行ったタウンミーティング、町民の皆様から直接の声を聞く貴重な機会となりました。様々な御意見や御要望をいただき、今後の町政運営に活かしてまいりたいと考えています。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 役場から地域に、町長だけではなくて、出ていったり生の声を聞こうとすると、どうしても耳に痛いこともあるんですよね。でも、それはある意味、税金みたいなものと割り切っていただいてですよ、ぜひ、しょっちゅうは不可能でしょうけど、またできたら生の声を聞く機会を継続していただきたいと思いますが、いかがでしょう。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えいたします。

私が町長になってから、やはり町民との対話、これを大事にしたいという考えで立候補いたしました。今回、地域住民の皆様と対話する機会を年間数回、また場所によっては地域自治公民館等を活用した開催を数回、開きたいと思っております。

前回のタウンミーティングで反省点は、最初の始まり6時というのを、できれば1時間やはり遅らせたほうがよかったのかな、女性の方、またそれぞれ仕事なさっている方々、6時では非常に厳しい状況じゃなかったかなと反省もしています。

それから、ぜひ毎月開いてくれというお言葉もいただきました。毎月というのはちょっともしかすれば厳しいかもしれませんが、数回、開催をしたいと思っております。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 私も聞かさせていただきましたけど、思ったよりか多いなと思った次第です。ぜひ町長、住民の生の声を聞く機会を続けられるということですから、ぜひ継続していただきたいと思います。

次に、行政無線についてです。

御婦人の方々と議会ではやはり話合いの場を持ちました。その中で、議会には説明が

あったわけですけど、新聞等でしかいわゆるPFAS等については載ってなかったそうです。多分大丈夫なんだろうと思うんだけど、ぜひ町長の声で、心配ないですよ、大丈夫ですよという声が防災無線であったら、ありがたいのになという声がありました。あっ、なるほどなと私感じたもんですから、このPFASということだけじゃなくて、大事な要件ですよ、町長が伝えられたいことでもいいと思うんですよ、何かあったら、頻繁じゃなくていいですけど、町長が生の声で話すことも、行政無線を利用されることもあっていいんじゃないんでしょうか。いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えいたします。

私もその必要性というのを感じております。今年の1月10日に開催された令和8年消防始式の前日夜に私自身の声で町民の皆様に消防団の活躍をお伝えするとともに、消防始式の観覧を呼びかけたところです。今後も状況に応じてこのような取組も考えていきたいと思っています。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 町長のおっしゃるとおりだと思います。私の経験も伝えさせていただければ、実は十数年前、口蹄疫が都農から、川南から、児湯地域、広がったわけですけど、当初住民から、かなり、何しよつとか、どげんなつちよつとかという苦情があっておりました。当時の町長に、生の声で短くですけど現状を伝えてもらったら、それから一切来なくなった経験がありますので、やっぱり職員の声を100回言うより、町長が生の声で一遍言ったほうがよっぽど効果があることはあると思いますので、ぜひお願いしておきます。

次に、町長の運営方針について質問させていただきます。

冒頭部分で、新たな時代への基盤を整えてまいると述べられていますが、新たな時代の基盤というのはどのようなイメージをされてのことなのかをちょっと尋ねさせていただきます。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えさせていただきます。

自治体が担う役割は、地域住民の福祉を向上させ、住民の生活に密着した行政サービスを総合的に提供し、地域社会の持続可能な発展を続けることです。この役割はどのような時代背景においても普遍ですが、その手段については、そのときそのときの状況により変化させ、その役割を果たす基盤を整えなければなりません。

現在は、人口減少や少子高齢化への対策が課題であり、同時にAIの進化とそれに伴う社会構造の価値観の大きな転換期を迎えています。長期総合計画の後期計画におきましても、自治体が担う役割は変わりませんが、掲げた6つの基本目標を達成するために、その時代・背景に合わせた手段を用い、その基盤を整える必要があります。

町政運営方針において新たな基盤を整えると表現しました意図について、変化する時代や社会状況に対応し、自治体としての役割を果たし、住民のニーズに応え続けるため

の運営体制や仕組み、基盤を強化して取り組んでいきたいとの意思に基づいたものです。  
以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 何となくぼんやりとしては分かりました。僕は、町のグラ  
ンドデザインみたいなことを意図してらっしゃるのかなとも思ったわけですけど、目標  
値を明確にしておかないと、その間の手段等に誤りが出ると思ったものですからお尋ね  
しました。

例えば、今受験シーズンですから、Aという学校が目標として勉強するのか、Bとい  
う学校に入ることを目的に勉強するのかで勉強方法は変わってくる場合もあると思  
いますので、その辺は明確にしておく必要があると思ってお尋ねいたしました。

何となくですけど分かりました。人口減少やら少子化問題、A I とかに対応される、  
何でも柔軟に対応できる体制を築くということなのかなというふうに理解しました。

次に、ひとづくりについてお尋ねします。

町長も触れられておられますけど、リーダーの養成は本当に必要ですよ。地域づく  
りまちづくりには、それを担う人づくりをなくしてまずできないと思うんです。おっし  
ゃるとおりです。昔から仏作って魂入れずなんてことも言いますが、そのとおりだ  
と思います。私もその点は町長に全く同感です。

特に、成人のリーダーです。リーダーについて、ちょっと川南だけでなく、欠けてる  
ような気がするんです。以前は、川南町だけでなくどこにも青年団っていうのがあり  
ましたよね。今は青年団というのは県内にもないようです。

町長、青年層だけでなく、いわゆる壮年層、そのちょっと上の、高齢者になる前の  
壮年を含めてリーダーが必要だと思うんですけど、どのようにそういったリーダーを、  
つくる必要はおっしゃっておりますけど、どのようにお進めになるお考えなんでしょう  
か。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えします。

現在、次代を担う人づくり事業として、日本三大開拓地小学生交流事業や子ども留学  
支援事業、実用英語検定受検支援事業などに取り組んでいるところであります。

リーダー養成に関する具体的な計画や構想に関する質問でありますので、現在進めて  
おります川南町リーダー養成プログラムについて御紹介させていただきます。

このプログラムは、リーダーシップを発揮できる人材を育てるため、各年代において  
その資質を見出し、育てるプログラムであります。小学校3年生から6年までの放課後  
子ども教室に参加している子供の中から小学校5、6年生の希望者を対象に、元気っ子  
リーダークラブにおいて、様々な体験活動を通してリーダーとしての資質を育てていき  
ます。

中学校に進学してからは、中高生を対象にしたジュニアリーダークラブにおいて、年  
代に応じた体験活動を行うとともに、他地域の同世代との交流を通してリーダーとして

の資質を育てております。このジュニアリーダークラブで育った子供たちが、次のステップでありますシニアリーダー養成や集団指導者養成を通して、次代を担う人材を育てる側の指導者として養成していくというものです。

このようなプログラムを通して、町と関わり続ける次世代の担い手を育てていきたいと考えています。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 青少年のリーダー育成、それは将来的には成人層へとつながっていくと思うんですけど、町長今おっしゃったのは、どうも成人層、いわゆるアダルト層へののが抜けてるような気がするんですよ。昔でいう青年団より年配の方。以前は、分館制度のときは、分館等で成人の方たち、地域によってはその中に青年部とか壮年部とかあったらと思うんです。自然発生的にリーダーも育ったんでしょうけど、今本町の状況を見ると、行政が手だてを加える必要もあるんじゃないかと思うんですけど、いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えします。

まさに、過去、青年団それから町内6団体が集まって川南町の将来を担っていくという中でできた組織が、まさに若者連絡協議会、これがそのことに当てはまるんじゃないかなと思ってます。

若者連絡協議会の目的っていうのは、それぞれ各団体を通して自分自身の研修・研究を通して成長していくと、この若者連絡協議会の一番の目的はそこにあると思ってます。そういったことを認識して活動していただく、これも大切だと思ってます。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 若者連絡協議会の活躍、活動もその一つだと思うんですけど、確かに。だから、彼らの中にもリーダーは育っているし、これからも育つんだろーと思えますけど。さらに、いわゆる方たちよりちょっと年配の方たち以上の壮年教育、いわゆるアダルト・エデュケーション、外国で社会教育のことをアダルト・エデュケーションという国もあるようなんですけど、その辺ぜひ御検討をお願いします。

時間の都合で、次に移ります。

人口問題充実について、お尋ねします。

新たな取組を検討する段階に来てるということですが、どのようなことを取り組まれるおつもりなんでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えいたします。

人口減少のスピードが想定を上回る中、これまでの定住支援や子育て支援といった個別施策の充実だけでは、大きな流れを変えるには限界があると認識しております。

ここで述べる新たな取組の検討とは、単なる既存事業の予算増額ではなく、町の仕組みそのものを根本から見直す転換に挑んでまいります。

具体的には、デジタル技術を活用した関係人口の創出や、これまでの行政主導ではない民間企業や住民組織との共助による新たな公共サービスの在り方など、過去の慣習にとられることなく本質的な課題解決に向けて白紙から議論を深めていきたいと考えています。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 力と、逆に言えば何でもかんでもやるよというふうにも取れるわけですけど。

先日、送料無料と子育て祝い金廃止の件について議会にちょっと説明に来られました。そのときに、人口問題については国に任せるよと、川南町は知らないよというような説明もありました。それはちょっと駄目だよと、人口問題は本町の自治体の大変な大切な問題ですよと言ったら、いやちょっと言い足りず、経済的、金銭的助成はもう川南町はせずに国に任せますという意味ですというふうに訂正されましたけど、私はちょっと勘違いじゃないかなと思うんです。

可能な限り金銭問題も含めて取り組まないと、本当、他自治体に遅れを取る、ある意味自治体間競争なんでしょうから、同じパイの中で取り合うという現象もあるわけですけど、死に物狂いでやらないと、町長、白紙からおっしゃいましたけど、あらゆる手段を講じるというふうに理解させていただきますけど、お金の支援も含めて可能な限りやっぱ取り組まないと、これは大変なことになると思います。

東京都は、子育てについて、経済的に裕福だからでしょうけど、いろんな問題に取り組んでいるようです。近隣のいわゆる自分の家を持たない近隣の自治体の人たちは、言葉はおかしいですが、宿借りのな、宿をアパートとかそういうところの方は東京都内に動くという現象、行きたいという現象が起こってるということがニュースでありました。

本当、何でもかんでも可能なことを取り組まないと遅れを取る、取り残されかねないというふうに思いますが、町長、御見解はいかがですか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えいたします。

今まで各自自治体様々な取組をして、結果的には人口減という、一時的にはプラスになった。でも、相対して結果が残ったとは言えないんじゃないかな。

まず、先ほど蓑原議員がおっしゃいました川南町の基幹産業、農林水産業、ここの所得を上げるっていう、このことが定住、移住につながると考えておりますので、あらゆる可能性を模索しながら、川南町にとって一番大切なものっていうのをつくり上げていきたいと思っております。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 町長おっしゃるように、あらゆる可能性を模索しないと、もちろんできないこともありますよね、国に頼らないといけない、川南だけが頑張るってできないこともあると思うんです。もちろん国が責任を持ってやるべきことをやっていたら

かなくちゃならないし、そういうことを期待するわけですけど。ぜひ、川南町も自治体としてできることは何でも取り組むという姿勢でお願いしたいと思います。

町政運営方針に関しては、まだ実は聞きたいことがいろいろございますけど、時間の都合で、これで終わらせていただきます。本日はかないませんのでこれで終わりますけど、また後日の機会を捉えて、この件に関しては質問させていただきたいと思います。本日は、これで終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 昭人議員） しばらく休憩します。10分間休憩します。